

教 育 実 践 研 究 の 歴 史

事 項	年 月 日	概 要
<p>1. キャリア教育法の実践と研究 調査研究 NO.01 幼児期キャリア教育法 ・キャリア教育と母親教育</p>	<p>1994.4.1~ 2001.9.30</p>	<p>01 について キャリア開発に最も影響を及ぼす時期は0～6歳の幼児期である。小学生～中学生（成長期）さらには15～24歳（探索期）に至る各発達段階におけるキャリアの意思決定及び学習意欲・学力と幼児期教育との関連性について検証。 <検証方法> 研究NO.02以降に記述する各発達段階におけるキャリア教育において、学生本人及び保護者からのヒアリング、双方向の月次学習報告書交換により幼児期教育とその後のキャリア開発との間に関連性が認められた。 <幼児期教育法> 自己コントロール力と学力の間には大きな相関関係があることは定説であるが、子供に最も大きな影響を及ぼす要素は母親・保育者の受容的な態度と主体的な学習を援助することである。つまり幼児期教育には子供自身の教育だけではなく母親・保育者の教育充実が必要である。</p>
<p>実践研究 NO. 02 小学期キャリア教育法 ・ポートフォリオ(評価法) *ロンドン大学のS=クラーク教授を中心に考案され、1980年代後半にイギリスやアメリカで取り入れられた「質的評価法」。</p>	<p>1994.4.1~ 2001.9.30</p>	<p>02 について この段階では右脳の発達が99%以上完了し（大脳生理学上の仮説）言語脳（左脳系）の発達が著しい。そこで言語（口頭または記述）による評価法、教師による客観評価と生徒による自己評価の組みあわせがキャリアに与える影響について仮説を立て、それらに基づき教育実践と検証を試みた。この評価法は後に「ポートフォリオ」と呼ばれ日本では1990年代後半から徐々に普及した。 <検証方法>授業の成果物、作文と面談による評価 春日原時習館およびKゼミナールにおける新たな試みとして、平成6年度から平成13年度まで、学期ごとにキャリアにつながる個人の能力を質的に評価し、パーソナルポートフォリオとして通知表を作成配布した。 評価要素例) 期限までにやり遂げる力 主体的に授業に</p>

<p>実践研究 NO. 03 国語科とキャリア教育法 ・アクティブ・ラーニング ・文脈的教授法 (Contextual Teaching&Learning)</p>	<p>1994.4.1～ 2001.9.30</p>	<p>参加する力 グループで話し合う力等を 5 段階評価し、個人の能力や行動パターンに関するコメントを記述。 *当時のポートフォリオは後に大学生就職活動支援版として再編集し福岡工業大学において 5 年間使用した。</p> <p>03 について 国語科とキャリア教育 ・小学低学年においては音読と暗唱に重点を置いた。既に明治大学の齋藤孝教授が発表している通り (著書「声に出して読みたい日本語」草思社 2001)、幼児期において有効である。テンポよく繰り返し音読しさらには暗唱することにより身体の活性化とともに情緒的な安定及び学習意欲の向上に繋がった。 ・小学高学年においては文章を深く読み咀嚼し次の 5 段階で授業を展開することで教育効果が高まる。 (1)自分のことばに置換えて筆者の視点を記述する。 (2)自分自身の考え (視点) を記述する。 (3)教師がプラスのフィードバックを生徒個別に行う。 (4)クラスで発表・議論する。 (5)教師からクラス全体に対し次の課題となるコメントとキャリア (特に生き方) に関連するコメントを与えて授業をまとめる。 この授業構成は生徒参加型のアクティブ・ラーニングであり、(5)のキャリアに関連させる手法は、学術教育とキャリア教育とを融合させた文脈的教授法 (Contextual Teaching&Learning)である。5 段階を踏む授業展開は、自己理解と他者理解に繋がった。</p>
<p>事例研究 NO. 04 小学生対象「社会学」のキャリア教育における有効性</p>	<p>1994.4.1～ 1997.6.30</p>	<p>04 について キャリア教育のための科目「おもしろゼミナール」春日原時習館において、英語に替わる新科目として提案し必修化が認められた。小学 6 年生対象に週 1 回 (45 分間) の特別科目として導入。時事問題・TV 人気番組・科学分野・歴史上の人物・注目の人物等を題材として、一般に「社会学」の範疇に入る切り口でクラス討論と個人発表を行う。課題として翌週までに感想文 (400 文字程度) を提出させた。(※感想文のコピーは一部当方にて現在も保管している。) <テーマ例> 「ヒーローになる方法」題材「松坂大輔」・・・小学生時代の好きな言葉「鬼に金棒」から分かる松坂大輔投手の人間性について討論ほか。 「恐竜はなぜ絶滅したか」「景気とお金の動き」「なぜ病気になるのか」「あそびの歴史」「将来を語る」「なぜ学校</p>

<p>事例研究 NO. 05 中学/高校期キャリア教育法 ・集団授業と個別指導の ハイブリッド方式</p>	<p>1997.7.20~ 2001.9.30</p>	<p>へ行くのか」「日本の国は誰のもの?」「ものを売らない産業」「(TVドラマ)『勝利の女神』を学問する」など年間約30テーマ。 <教育効果の検証> 感想文集に収めた作品を分析し、またその後20名の生徒の追跡調査を20年間行った。 <教育効果の仮説> 自己理解は勿論のこと社会に対する関心度が高まる。働く意義や生きる価値観を育む契機となる。 <追跡調査例(抜粋)> Aさん:平成17年3月大学卒業後、人材派遣会社に入社(会社初の新卒採用の営業正社員)。10年後のキャリアコンサルタントを目指している。 Bさん:平成18年3月大学卒業後、福岡県庁に公務員として就職。 Cさん:東京理科大学修士課程~大手電気機器メーカー研究室に就職(平成19年4月就職) このように自律的かつ社会貢献性の高い職務に就く傾向が認められる。</p> <p>05について 総合学習塾Kゼミナール 対象:中1~中3 集団授業+個別指導のハイブリッド方式 :教育の効率化と高効果を両立させる試み。 ・1クラス8~20名の集団授業 単元の基礎解説や基礎問題の演習においては一斉授業を行う。集団心理を活用した集中力の向上、競争意識の高揚により短時間で教育効果が得られる。 ・個別対応へのスイッチ 成績別クラス分けを行ったとしても各科目の得意不得意によりクラス全員の理解度・進度は揃わない。理解度や演習進度に大幅な差異が生じた場合または差異が生じることを予め想定した個別対応を行う。この場合、授業のメイン講師に加え、1~2名のサブ講師(多くは非常勤講師の大学生)を配置しチームティーチングが行われる。 <教育効果> 集団授業のみでは全く授業に参加できない生徒が、学習意欲を保持向上させ、中学期においては(一部の小学期の学力定着に大きな問題がある場合等を除く)大幅な学力成績の向上が見られた。(学校定期テストおよび入試模擬テストデータによる検証結果)</p>
--	--	--

<p>事例研究 NO. 06 中学/高校期キャリア教育法 ・自立型学習と 評価表（ループリック）</p>	<p>1997.7.20~ 2001.9.30</p>	<p>06 について 自立学習ノート「PROGRESS」 ・生徒が自主自立して月間目標設定と学習計画を行う。前月の学習状況と成績を振り返り、変化成長した点、改善点に分けて考察。クラス担任に提出した後、生徒と担任との話し合い（主に教師によるコーチング）がなされ精度の高い目標設定と学習計画が立てられる。 ・個別対応クラスの自立型学習法のルール (1)生徒が当日の学習メニューを作成し担任に申請。 (2)担任によるコーチング及び助言の後自立学習開始。 (3)授業は原則として自学。 (4)教室には参考書類が豊富に揃えられ自由に活用可能。 (5)自力で解決できない場合、あるいは担任の巡回時に課題設定が不適切と判断した場合のみ教師が介入する。 月末には、生徒自身による各種項目ごとの評価と担任による評価コメントが記述され保護者宛てに郵送。1週間以内に原則として保護者によるコメントを記入いただき返送される。PROGRESSノートの評価表は後に「ループリック」として大学等に普及した。「ループリック」評価表は、縦軸に評価項目：観点（提出物、授業態度などに評価対象を分類したもの）横軸にレベル：尺度（達成レベルをアルファベットや数字で数段階に分けて示したもの）を表記する。 <教育効果> 文字通り自主自立の精神性が育成されることとなる。自立的に学習する習慣が身につく成績が向上し、高等学校進学後に更なる教育効果が出表する。自己管理ができるため予習・各種テストに対応し、成績が概ね恒常的に上昇する結果となった。 <関連検証> 「自立型学習法」を必修科目化 ・春期・夏期・冬期の集中講座において自立型学習法を必修科目として導入。 単元例 「なぜ勉強するのか概論」 「自立学習ノート作成」～目標設定と計画～ 「効率学習法（1）辞書、参考書の効用と楽しみ方」 「効率学習法（2）スモールステップ」 「リラックス法」 「興味・関心による職業心理テスト」ほか13単元 <教育効果> 目先の受験のための学習という観点から離れて、少し先の将来、自分自身の仕事を中心としたキャリアの観点にて現在の自己理解と学習意義発見への契機となった。そ</p>
---	--	--

<p>2. キャリア教育プログラム 開発と産学公連携 実践研究 NO. 07 進路選択と職業観育成 ・進路選択学年時に「職業観 の基礎土台をつくる産学公 連携事業」の有効性 *久留米市主催</p>	<p>2012.4.1～ 2017. 3.31</p>	<p>の結果、自己の職業適性に興味を持ち、多くの中学生・ 高校1, 2年生が職業研究を始めるという現象が起きた。 その後、個性的な進路選択に至った生徒も少なくない。</p> <p>07について 久留米市「職業観育成セミナー」: 久留米市役所労政課— 商工会議所—公立学校(小・中・高等学校・大学)関係 者で組織する久留米市雇用協議会と連携し、地元の学生 が地場の企業に就職し、職場定着することを主たる目的 として企画され、5年間実施された。年間約10～20校の 小学校・中学校・高校・大学にて主に次のようなテーマ にてキャリア教育を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の未来を考えるセミナー ・職場体験事前セミナー ・今の学びが将来の仕事につながるセミナー ・就職決定者向けビジネスマナーセミナー ・進路選択とキャリアデザインセミナー <p><教育効果> 「学校での今の勉強にやる気が出た」 「就職について前向きになった」 「社会や職業のことが詳しく分かった」など 学習の意義や価値を様々な視点で見出し、進路選択の視 野を広げることが出来た。また、地場企業や地域の取り 組みに関心を持ち、「久留米で働きたい」と明確に述べる 学生が着実に増加した。</p>
<p>調査研究 NO. 08 大学における就職とキャリ ア支援の枠組み構築 ・福岡県全域の 大学サテライト事業 *福岡県主催</p>	<p>2003.1.30～ 2006.3.31</p>	<p>08について 大学に必要となるキャリア教育として以下の教育プログラ ムを提供した。主にジョブカフェ福岡(福岡県若年者し ごとサポートセンター)が展開する「大学サテライト事 業」として福岡県内21の大学・短大に大学サテライト を設置。実態調査後に定期的な講義または個別相談によ るキャリア支援を行い、教育効果を検証した。</p> <p>(1) 5つの理解と長期的キャリアデザイン支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己理解・・・興味・能力・価値観・経験を自己分析 し、不足部分を様々な視点と切り口を与えることにより 新たな自己発見を促す。心理テストをはじめインフォ ーマル・アセスメントを作成導入。 <p>動物園職業価値観テスト キュービックカラー診断 ニ ート・フリーター予備軍度チェックリスト 4つの感性診断 簡易版ホランドテスト ほか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会理解・・・経済環境、生活環境、社会環境、企業

<p>実践研究 NO. 09 多角的コミュニケーション能力の育成法(反転授業) *教育特区指定都市 福岡市後援</p>	<p>2006.4.1 2011.3.11</p>	<p>環境、雇用環境の5つの環境変化について問題提起し、社会理解と先見力養成を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界理解・・・およそ40業界の動向と10年～30年後という長いスパンでの発展性を考察し自己のキャリアデザインと関連づける。 ・職種理解・・・全国35,000の職種から自分らしい職をいかにして探索し複数候補から少数に絞り込むかを教授。また、学部学科の特長の活かし方について詳細まで言及することにより、働くことの現実感をイメージ。 ・企業理解・・・全国の企業数、SOHOで働く数独立起業の実態等数値で示すほか、企業の厳しい雇用体制(教育体制の脆弱さや求める人材質の高さと学生との大きな隔たり)などを具体的に解説。自己実現のための就職、キャリア安定と職業満足のための就社(マッチング理論)に分けて長期キャリア設計の必要性和手法を説く。 <p>(2) 職業観意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「統合的人生設計理論」の視点を与える ・広い視野に立ったキャリア選択 ・人生の「パッチワーク」を創造 ・男女の共同、共生 ・多様性を生かす ・仕事に精神的意味を見出す ・個人のキャリア転換と組織変革に対応する ・クルンボルツの社会学習理論の活用 <p><検証結果>サテライト21大学のアンケート結果論理的なキャリア設計とともに「計画された偶然性」の視点を持つことにより職業選択の幅が広がる。あるいは意思決定(選択)につながりやすくなる。さらには潜在意識または本来の自己実現欲求を発見する手助けとなり早期の進路施択と就職内定に結びついた。</p> <p>*詳細：調査報告書</p> <p>09について コミュニケーション能力の育成法(反転授業) LEC東京リーガルマインド大学 総合キャリア学部 福岡キャンパス(特任講師)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア開発学演習I～IVにおける取り組み <p>教育特区の福岡に日本初の株式会社立大学が開校し、月に1回、福岡市職員や士業、起業家等のゲスト講師を多数招いての特別講義と質疑応答なども実施した。また、福岡キャンパスのクラスにおいては18歳から26歳まで個性豊かな生徒が在籍していた。この特色を活かすために次のような90分間の授業構成とした。</p> <p>(1)指定するテキストページ範囲内における質問とニュー</p>
---	-------------------------------	--

<p>実践研究 NO. 10 グローバル産業人材の 育成法(主に留学生の就職と キャリア支援) ・久留米市主催 ・九州グローバル産業人材 協議会主催</p>	<p>2003.1.3～ 2016.12月</p>	<p>ス等の話題とコメントを用意して授業の臨むこと (2)最近、気になる話題についてクラス全体で議論 (3)グループワークを多用して進行 (4)対話型双方向授業を徹底 (教育効果) ゲスト講師による講義は、学生の社会的な 視野と職業選択の幅を大きく広げることに寄与し、資格 取得者の増加にも結びついた。大学入学時当初全く発言 できなかった生徒ですら授業で積極的に質問できるよう になり必然的に授業は活性化した。4年次には地元の九州 大学生やコミュニケーション能力の高い東京首都圏の大 学生と対等以上にディスカッションできるまでに成長し た。このように多角的なコミュニケーション能力の育成 法は、社会人基礎力の醸成につながる。</p> <p>10 について グローバル産業人材の育成法 (1) グローバル人材の育成に力を注いでいる高校等(久 留米高校 明善高校 久留米附設高校 駿台予備校)に おけるセミナー教材開発とセミナーを行った。 <内容>グローバル人材になるための学び方、英語習得 だけではない必須の教養、大学における学び方8つの提 言、キャリアデザインについての情報提供とグループワ ーク。終了後のアンケート調査。 <教育効果>学校の授業では教わることのない視点を大 学進学する前に持てたことが大変良かった、とする感想 が多く寄せられた。 (2) 九州グローバル産業人材協議会との連携 全国で組織するグローバル産業人材協議会の九州支部は (株)麻生塾が受託して運営しており、留学生に対する教育 カリキュラム・教材開発と九州全域の大学におけるセミ ナーと個別相談を再受託して実施。(延べ3年間)また、 企業に就職したグローバル産業人材(主に中国人、韓国 人、ベトナム人)の職場定着コンサルティングを企画・ 実施した。 <内容>①企業の社員や顧客と円滑なコミュニケーション を図るためのビジネス日本語 ②和を重んじる日本文 化、あいまいな表現法、日本企業の組織について知るた めの企業組織論 ③企業が留学生に求める強み発見講座 <教育効果>各大学における留学生に対する就職活動の 最適化セミナー、継続的な個別相談を行い、企業とのマ ッチング数が増加した。グローバル人材が職場定着する ための方策を、不動産・建築・自動車部品工業・IT関連 企業等に提供し離職防止に繋がった。</p>
--	--------------------------------	--

<p>実践研究 NO. 11 キャリアデザイン力とパートナーシップ力強化による 職場定着 ＊福岡県主催事業 ＊LEC 東京リーガルマインド 大学専門科目 ＊福岡工業大学 キャリア形成科目 ＊顧問企業</p>	<p>2003.1.3～ 2016.12</p>	<p>11 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョブカフェ事業（福岡県若年者しごとサポートセンター）における取り組み 対象：概ね 16 歳～35 歳 ・LEC 東京リーガルマインド大学および福岡工業大学における取り組み 対象：大学 1 年生～4 年生・大学院生 ・顧問企業における新入社員研修 <p><背景と主旨> 離職率が高く適職に就けない職場に定着できない若年者が多い状況に配慮し、生き方働き方に長期ビジョンを掲げ人生設計を試みることで自分らしさを新たな視点で見出し、就職・再就職・職場定着につなげる。 ※福岡県 2005 年度調べ離職率：大学卒業後就職者の 3 年未満離職率 40.0% その後も 30%以上</p> <p><キャリアデザインの強化教育法> OBT（アウトカム：結果＝キャリアゴールを設定し、逆算してキャリアデザインを行う）の手法により長期的な視野でキャリアを考察できるため様々な気づきが得られる。L. サニー・ハンセンの 4 つの L（Labor Learning Leisure Love）のバランスについていままでの自己を振り返り、未来の理想像を詳細まで記述しクラスでシェアすることによりモチベーションアップと一歩踏み出す力に繋がった。</p> <p><パートナーシップの強化教育法> キャリアを描き、職場定着を図るための共通課題である人間関係について分かりやすく解説し、自信を深めながら使えるコミュニケーション技術の習得を目指す。コミュニケーションの 4 つの考え方について対話形式で一人一人からコーチング。受講者自身の体験談から気づきを引き出し 4 つにまとめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)相手意識（相手の利益・共感を意識する） (2)信頼（信じること、頼り切ること） (3)与えるリーダーシップ (4)自分らしさ <p>自分らしさについては、アサーションの基礎トレーニングとしてクッション言葉を用いたパターンプラクティスを行う。</p> <p><教育効果> 新入社員向けにキャリアデザインとパートナーシップ教育を年間計画で行った企業は、離職率が飛躍的に向上した。例) 卸業 A 社（1 年目の離職率前年度 70%：10 人中離職 7 人→導入後 2014 年度 0%：8 人中離職 0 人） 建設業 B 社（1 年目の離職率前年度 100%：5 人中離職 5 人→導入 2016 年度 0%：5 人中離職 0 人）</p>
---	---------------------------------------	---

<p>実践研究 NO. 12 維持期にあたる年齢層に対するキャリア再教育法 * 福岡県主催 * 再就職支援会社 * 顧問企業</p>	<p>2004.4.1～ 2016.12</p>	<p><効果要因></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的フォローアップ研修と個別相談を実施したこと ・ 新入社員だけではなく管理者向けにもキャリアデザイン・カウンセリングコミュニケーション・リーダーシップに関する実践研修を行ったこと ・ 全社員による年間目標とキャリアデザインシート記述 <p>12 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡キャリア交流プラザにおける公的取り組み ・ テンプスタッフ転身サポート(株)における再就職支援 ・ 顧問企業内キャリアカウンセリング <p><主旨></p> <p>対象が維持期にあたる中高年者（45～60歳）であるためキャリアの経験値は高いが、幾つかの固定化した観念に支配される傾向にある。マイナス的思考からプラス思考へ導き新たな視点を与える。維持期層の再就職に当たっては求人数が少ないため、職業選択の視野を広げること、仕事を中心とした人生全体でキャリアを考察することと同時に支援ネットワークを構築することが重要である。県のアローワーク、中高年就職支援センター、人材バンク、再就職支援会社、就職支援 NPO、そして、企業の人事担当者とのネットワークの中でキャリア支援を行い、教育において有効だったものは以下の講座である。</p> <p>（1）自己分析講座およびメンタルヘルス講座</p> <p><教育法></p> <p>グループワークにて働く意義や人間関係について考えグループ代表者による発表。全体でシェアすることにより働く意義、生きる価値観、人とのかかわり方について多くの気づきを促す。また、3つの発想法を教授し柔軟な思考力を習得する基礎を築く。</p> <p>(1)反対連想法 (2)時間軸を変える (3)前提を変える</p> <p>（2）企業の考え方講座</p> <p><教育法></p> <p>企業が求める人材像と自分自身が考える理想との隔たりについて熟考。自己改革に必要な要素について質疑応答と対話形式にて解説。</p> <p>(1)リーダーシップ（聴く技術ほか） (2)就職に求める条件の優先順位づけの見直し (3)4つのLの統合的人生設計 (4)社長思考のすすめ (5)キャリアチェンジとキャリアパス事例の提示</p> <p><教育効果例></p>
--	------------------------------	---

<p>実践研究 NO. 13 文部科学省 GP 事業 「福岡工業大学プラスワンプロジェクト」 ＊福岡県主催 産学官連携事業 「新卒者・未就職卒業生の 就職支援と職場定着支援」</p>	<p>2008.11～ 2013.3.31</p>	<p>2016 年度：顧問企業（卸小売業：全国展開）の営業社員 に対する年間研修では、積み上げてきた過去の知識や技術 と現在必要とされている知識・技術・情報とのギャップ 分析と自己のキャリア開発の必要性の自覚を促すこと で、仕事のモチベーションアップと技術向上が図られ、 全社の年間売上が前年比 105% にアップした。</p> <p>13 について</p> <p>2008 年リーマンショックに伴い、企業都合による解雇、 内定取り消しが相次ぎ、その後所謂、就職氷河期に突入 したため、大学側が卒業後も未就職の者に対して就職支 援を行う事業が文部科学省 GP 事業として認められ「福 岡工業大学プラスワンプロジェクト」を開始した。</p> <p><学内支援体制と教育プランの策定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間研修カリキュラムと個別支援プログラムを作成 ・事前告知と説明会実施 ・応援体制を強化するためサポート企業を開拓 ・学習塾で活用した自己管理プログレスノート （ループリック）の導入 ・福岡県若者しごとサポートセンターとの連携強化 ・職場体験 7 週間の受け入れ企業の開拓（全 200 社） <p><福岡県新卒者就職応援事業との連動></p> <p>2011 年度～2013 年度；福岡県緊急雇用創出事業「新卒 者緊急就職応援事業」において新規学卒未就職者で現在 働かれてない方々を対象に、地元企業での体験雇用等 を実施し社会人基礎力や各分野ごとの基本的知識・技能を 習得する機会を提供。3 年間で約 250 名を支援。</p> <p><教育支援システム></p> <p>事前カウンセリング⇒5 日間の実践型研修⇒7 週間職場 実習（体験雇用）⇒フォローアップ研修⇒就職支援</p> <p><支援結果></p> <p>自己表現能力と社会人基礎力を強化しビジネスパーソン としての『商品価値』を高めることで約 4 割程度 （100 名超）が就職及び進学に至った。</p> <p><体験雇用企業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビ西日本（報道補助、AD 補助、オンエア補助、 番組制作補助等） ・TNC プロジェクト（テレビCM 調査・営業補助） ・通販会社での Web サイト運営 ・イベント運営会社での企画・運営 ・天神・博多地区ファッションビルでの接客 ・全国有名ブランドショップでのファッション販売 ・中央区・天神地区・博多地区飲食店での接客補助 ・保育施設での保育補助 etc
---	--	---

<p>3. キャリア開発に関連する心理学等の研究 事例研究 NO. 14 植物心理学とキャリア開発</p>	<p>2003.1～ 2017 現在</p>	<p>研究 NO.14～18 の研究背景 1987 年～2002 年までの 15 年間、主に学習塾において幼児、小中学生、高校生の教育法研究と実践を行った結果、学力・個性・職業能力の伸展にとって最も影響を及ぼす時期は、乳幼児期教育である、との仮説に至った。そこで総合教育社アシスト(株)併設の研究所では、植物（主にバラ科）と動物（ネコとイヌ）の観察と実験を行い、得られた検証結果とキャリア開発学・教育心理学・発達心理学における理論・定説とを統合し、変化の激しい現代社会のこども教育に有効な教育法を開発する研究を 15 年間継続している。</p> <p>14 について 植物心理学とキャリア開発 人間の持つ植物性・動物性・母性・父性・男性性・女性性と植物生育（キャリア発達課題）に着目し、主にバラ科の植物を中心に、環境が与える生育への影響について観察検証を行っている。</p> <p><観察例>つるアイスバーグ <個性></p> <p>①日陰に強いが、生育が遅い 半日日陰が良い ②肥料が切れると生育が止まる、花が止まる ③シュートが出にくく、強い剪定をすると回復が遅い ④剪定は全体を刈り込むと花が咲かなくなる ⑤真夏の蕾は摘まないと株が弱る、綺麗に咲かない</p> <p><年間実験：2007 年 4 月～2017 年現在></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日当たりの良い場所に置く→生育が遅くなる ・日陰に置き肥料を与える→順調に生育 ・半日日陰に置き肥料を与えない→順調に生育 ・適度な雨量と適度な水やり→順調に生育 ・雨量が少なくあまり水を与えない→一部枯れはじめる ・鉢植えで他の植物と育てる→生育が悪く花も少数 ・鉢植え単独で育てる→ある一定の高さまで生育 ・地植えで雑草を刈り取らずに育てる→生育が悪化 ・地植えで雑草を刈り取って育てる→生育が好転する ・強い剪定を行う→回復が遅く花咲きも悪化 ・真夏の蕾を摘まないと株が弱り花の彩度が弱くなる ・適度な剪定を行う→生育が早く花も多く咲く ・半日日陰の地植えで適度な剪定・水やり・肥料を与える→生育が早く、蕾が多くつき、大きく花が咲く <p><結果> 特徴（個性）にとって好ましいとされている環境</p>
---	----------------------------	---

<p>事例研究 NO. 15 動物心理学とキャリア開発</p>	<p>2003.1～ 2017 現在</p>	<p>①半日日陰 ②適度な水 ③単独の地植え ④適度な剪定 の4つの条件が満たされると生育は順調に進行し花が咲く 但し、肥料を与えなければ花の数は減少し、小さく咲き、色の彩度も薄くなる。</p> <p><仮説> 植物の持つ心理特性にマッチした母性としての「太陽」父性としての「水」環境としての「土」クラスメイトとしての「多様な植物」教育者やコーディネーターとしての「ガーデナー」の相互作用によって生育が左右される。</p> <p>15 について 動物心理学とキャリア開発 <観察と検証結果1> ネコ科のハナコ：1995年4月生まれメス ネコ（ハナコ）に対する有効な教育法 「ソーンダイクのネコ」化や幼児期の自己中心的思考と類似する問題行動とその解決法を探る。 →ネコの気質としての自立意識を持つため、成人と接するように人格を尊重し、居場所を確保し、必要な時に適切なコミュニケーションを取ることでネコの自尊心を守り、自己中心的な欲求が満たされ情緒が安定する。</p> <p><観察と検証結果2> ADHD 注意欠如多動性障害に類似したイヌ（マメ）に対する有効な教育法と教育の限界 →集中力が高まる場面の抽出：餌取りゲーム・ネコの行動阻止ゲーム・動く棒追っかけゲーム等原始的本能的な遊びに対して高い集中力と才能とも呼ぶべき身体的能力が表出する。</p> <p><観察と検証結果3> 親（飼い主）依存症のイヌ（アズキ）に対する有効な教育法と能力開発法 →従順である一方、従順性を発揮できない場面では問題行動をとる。他の仲間との親和度に比例して段階的に依存度を低めることが可能。 *その他、気質・性格・行動基準が異なるイヌとネコとの共存共生を成り立たせる自己学習と飼い主（教育者）による有効な介入法について研究中。</p>
<p>調査研究 NO. 16 「メンターシップに必用な3大要素」</p>	<p>2003.1～ 2017 現在</p>	<p>16 について 企業人事コンサルティング時ヒアリング調査結果 <メンターシップに必要な3大要素> (1)愛を感じるコミュニケーションづくり (2)個性や自主性を引き出すコーチング ・協調意識を引き出しチームで作業させる</p>

<p>教材開発研究 NO. 17 職業観育成のための教材 「全人格の人間力を構成する5つの要素」ほか</p>	<p>2003.1～ 2017 現在</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・好奇心を引き出し多様な業務に取り組みさせる ・合理性（理由と遣り甲斐）を引き出し行動へと導く <p>(3)生活および人生に価値を与える教育プラン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体系的かつ接続可能な教育制度の充実 ・キャリア支援と合理的な評価制度づくり <p>17について <全人格の人間力を構成する5つの要素> (1)心・・・精神力 他者とつながる力（愛） (2)思考・・・学ぶ力 知識と教養を活用する力 (3)感性・・・五感で感じる力 想像力 (4)技術・・・人・モノ（IT含む）・お金を動かす力 (5)体・・・健康な肉体 活力 行動力 *「久留米市職業観ハンドブック」に詳細記載</p>
<p>実践研究 NO. 18 教育心理学と発達心理学</p>	<p>2003.1～ 2017 現在</p>	<p>18について 教育心理学と発達心理学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい教授法：短期記憶に有効であるが長期記憶に結びつくためには「リハーサル」が必要。 ・分かりやすく教えない教授法：子供たちの主体的な思考を促し多くの脳内記憶情報と関連付けられることで長期的な「学習定着」が期待できる。 ・教育レディネス：ヴィゴツキーの「発達の最近接領域理論」に基づく教育は発達を生み出す可能性がある。*現在の発達段階、発達しつつある段階を見極める観察力が必要。 ・幼児期・児童期の人格形成5大要素 <ol style="list-style-type: none"> ①社会環境とテクノロジーの変化 ②家庭環境における母性と父性の関わり ③学級集団との相互作用 ④保育教育者との対話と関係性 ⑤メンター（人・書物や作品・経験）との出会い ・子どもの社会化と個性化を両立させる教育法として米国のクオリティスクールモデル＝子供たちによる教え合いが有効。 ほか
<p>4. 大学専門科目としての キャリア開発学 実践研究 NO. 19 キャリア開発学 「個人のキャリア開発」 ・LEC東京リーガルマインド 大学総合キャリア学部福岡 キャンパス専門科目</p>	<p>2006.4～ 2011.3</p>	<p>研究 NO.19～23 キャリア開発学の定義 キャリア開発学とは、個人のキャリア開発－組織論－経営学－環境経済論－地域社会学などを包括的に取り扱う学問である。キャリア開発学演習では事前課題をもとに反転授業や研究発表などアクティブ・ラーニングを行う。</p>

<p>キャリア開発学演習 I</p>		<p>19 について</p> <p><キャリア開発学演習 I：個人のキャリア開発></p> <p>キャリアとは仕事を中心とした人生全体を指す。サニー・L・ハンセン氏の統合的人生設計理論では人生は、大きく、仕事・学習・余暇・愛の4領域と定義している。変化し続ける現代社会において、仕事と成果を維持し続けるためには自分自身と他者、企業や社会といったステイクホルダーとの関係構築が大変重要となる。個人のキャリア開発に効果の高いシラバス・教材開発・授業デザイン・評価法の改善を行った。</p> <p><前期後期全30回></p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアとは何か ・大学で何を学ぶか ・経済環境の変化 ・社会環境の変化 ・雇用環境の変化 ・日本の企業形態と種類 ・人事労務管理の動向 ・日本的雇用慣行の特徴と変化 ・若年者をめぐる雇用問題・雇用のミスマッチ ・新たな人材マネジメント ・キャリア開発とIT ・キャリア理論 ・発達心理学 ・精神分析 ・特性因子理論 ・キャリアカウンセリング手法 ・自己理解 ・職業興味と適性 ・キャリアアンカー ・啓発的経験～自己投資 進学と留学
<p>実践研究 NO. 20 キャリア開発学 「社会人基礎力」 ・LEC東京リーガルマインド大学総合キャリア学部福岡キャンパス専門科目 キャリア開発学演習 II</p>	<p>2006.4～ 2011.3</p>	<p>20 について</p> <p><キャリア開発学演習 II：社会人基礎力></p> <p>3つの社会人基礎力を醸成し、変化し続ける社会や環境のもと、持続的に雇用され得る力と自律的に生きるアントレプレナーシップの基礎を築く。社会人基礎力の醸成に効果の高いシラバス・教材開発・授業デザイン・評価法の改善を行った。</p> <p>(1)自律して主体的に他者に働きかけ実行する →前に踏み出す力</p> <p>(2)自ら課題を発見し解決を図る 計画し創造する →考え抜く力</p> <p>(3)組織として有機的につながり結果を出す</p>

<p>実践研究 NO. 21 キャリア開発学 「企業経営」 ・LEC東京リーガルマインド大学総合キャリア学部福岡キャンパス専門科目 キャリア開発学演習Ⅲ</p>	<p>2006.4～ 2011.3</p>	<p>→チームで働く力 <前期15回> ・コミュニケーション能力①意思疎通 ・コミュニケーション能力②協調性 自己表現能力 ・職業人意識①責任感 主体性 向上心 探求心 ・職業人意識②課題発見力 職業意識 勤労観 ・基礎学力①ビジネス文書の作成・読解 ・基礎学力②計算・計数・数学的思考力 社会人常識 ・ビジネスマナー 8つのビジネス意識 ・資格取得 情報技術関係 経理 財務関係 語学力関係 <後期15回> ・企業研究①経営理念 企業の目的 社会的使命 ・企業研究②会社概要と有価証券報告書を読む ・就業と人事・労務管理 ・タイムマネジメント ・SWOT分析 ・顧客満足について ・ビジネスプランの策定 ・事務所開業の手続き ・事業収支計画の策定 ・企業の設立 開業計画書の作成 ・自治体の新規事業</p> <p>21について <キャリア開発学演習Ⅲ：企業経営> 学習した知識・スキルの応用力養成という観点からケーススタディを中心に学習を進める。企業が直面する問題に対してケーススタディを通して、経営、組織、戦略、人事、財務、マネジメントなど経営学の各分野全体の視点から、問題発見・原因分析・問題解決策立案ができる能力を育成する。キャリアと企業人意識を高めるシラバス・教材開発・授業デザイン・評価法の改善を行った。</p> <p><前期15回> ・代表的なマネジメント理論と分析技法 ・戦略とマーケティング①市場創造 ・戦略とマーケティング②チャネル政策 <後期15回> ・組織と人の管理（組織改革） ・ビジネスモデルの形成と展開①事業戦略 ・ビジネスモデルの形成と展開②成長戦略 <ケーススタディ企業・団体> ・Jリーグ プロ野球 スポーツマーケティング ・ハーレーダビッドソン 顧客ロイヤルティ ・カルビー チャネル戦略</p>
--	------------------------------------	---

<p>実践研究 NO. 22 キャリア開発学 「地域経営」 ・L E C東京リーガルマインド大学総合キャリア学部福岡キャンパス専門科目 キャリア開発学演習IV</p>	<p>2006.4～ 2011.3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資生堂 文化資本を用いた販売戦略 ・京セラ アメーバ組織と哲学経営 ・都ホテルズ&リゾーツ グローバル化と組織戦略 ・I B M 事業戦略と企業文化 ・伊那食品工業 伝統産業における持続的成長戦略 ・久原本家 地域に根差した1次産業から6次産業へ <p>使用教材： 岩谷昌樹・徳田昭雄（編著）（2007）『ケースブック戦略的マネジメント』（白桃書房）</p> <p>22 について <キャリア開発学演習IV：地域経営> 私たち一人ひとは、地域社会の1細胞であり、人と人、人と企業、人と地域社会とが有機的につながり主体的に働きかけることによって各々のキャリアが開発され発展していく。身近な事例や興味深い成功事例をもとに将来、社会人として地域社会の1細胞としてどう生きるか、どのように働いて社会に関わっていくか自分事として考え検討・研究を行うことで、社会で生き抜く力を醸成する。また本授業では、4年間の集大成としてフィールドワークをもとに卒業研究を行い発表を行った。</p> <p><期待される教育効果></p> <ol style="list-style-type: none"> (1)個人の発想力・思考力・プレゼン能力の養成 (2)個人（特に自分自身）のキャリア開発 (3)企業（各種法人）経営と個人の働き方についての学び～企業のキャリア (4)地域や国家の再生・構築についての学び～地域・国家のキャリア (5)グループワークを通じた人間関係力の養成 <p><前期後期全30回></p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究制作と発表 単位認定基準について ・「地域社会と人」概要 ・地方分権一括法と地方分権 ・新たな地方の役割とまちづくり ・条例と自治体経営 ・景観条例と土地利用計画 ・田園居住と地域経営 ・フィールドワークによる地域経営の取材 ・卒業研究論文制作～中間チェック ・農村集落の再生～糸島を事例として ・都市計画マスタープラン～柳川の観光事業 ・省エネ地域経営～岩手県葛巻町 ・歴史景観の継承で地域再生～岡山県倉敷市 ・世界遺産共存景観～広島市 ・治水とまちづくり～滋賀琵琶湖
---	------------------------------------	--

<p>実践研究 NO. 23 キャリア開発学発展科目 「現代社会論」 ・LEC東京リーガルマインド大学総合キャリア学部福岡キャンパス 教養科目</p>	<p>2006.4～ 2011.3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和レトロのまちづくり ・歴史上の人物頼みの町は衰退する ・アジアと共に発展する福岡市 ・大分県大山町の「一村一品」 ・NPOまちづくりサポート国分寺 ・卒業研究発表 <p>23 について <現代社会論> 現代の社会を歴史的なタテの深掘り、幅広い地域とビジネスの視点(横の視野)、キャリアの奥行きをもって俯瞰することで、自己と社会と世の中の事象を多角的に観る力を醸成する。キャリア開発学の発展科目として開講。</p> <p><前期15回></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史に見る社会変動と市民アクションⅠ 昭和～平成20年：グローバル化とポストモダン ・歴史に見る社会変動と市民アクションⅡ 明治維新～昭和：激動と混沌 ・歴史に見る社会変動と市民アクションⅢ 江戸時代：幕府の安定 ・歴史に見る社会変動と市民アクションⅣ 戦国時代：改革と統一 ・歴史に見る社会変動と市民アクションⅤ 鎌倉時代～室町時代：崩壊と確立 ・歴史に見る社会変動と市民アクションⅥ 古代：共同体の成立と小国家の分立 ・コミュニティをアシストする 事例検討①「西新商店街」連合会 事例②産学官連携と「小倉ハローズ」 ・地域社会の課題と市民アクションⅠ ものづくりと「ルネッサンス」のアプローチ ・地域社会の課題と市民アクションⅡ 観光とホスピタリティ ・地域社会の課題と市民アクションⅢ 福祉(高齢者・障害者)・教育・共生 ・地域社会の課題と市民アクションⅣ 国際化と環境ビジネス ・地域社会の課題と市民アクションⅤ 地域資源の見直し：食と農業・新ビジネスの可能性 ・グループ演習 地域社会の課題発見と解決のための市民アクションプログラム作成 ・アクションプログラム発表とシェア 個人の統合的人生設計、多様性を許容する共生社会を目指して～
--	------------------------------------	--

<p>5. 教授法の研究 実践研究 NO. 24 教授法ムービングメソッド</p>	<p>1987.4.1~ 現在</p>	<p>24 について <授業における動き学> (各種ムービングメソッド) ムービングメソッドは現在、アクティブ・ラーニングと呼ばれている教授法も含む。授業の教育効果に「教室の空間マネジメント」が大きく影響を与えていることに注目し、空間の「動き」に加え、教師の動き ツールの動き 教材テキストの動き 生徒の身体的動き 生徒の思考の動き 生徒の感情の動き 生徒どうしのコミュニケーション、生徒と教師の対話の動きを研究し体系化させた。外国語の教授法として認知されている「サジェストペディア教授法」(精神病理学者G. ロザノフ)においても、学習の環境を整えることを強調している。また、カウンセリング教授法(心理学者カラン)においては、教師のかかわり方は助言を与えるカウンセラーのようなものだと、学習者を円形に座らせ教師が背後から助言的教育を行う空間手法を提唱している。</p>
<p>実践研究 NO.25 生徒指導・教育相談と カウンセリング技法</p>	<p>2000.4.1~ 2016.3</p>	<p>25 について (1) 心理カウンセリングルームの設置3年間 <概要>学習塾Kゼミナールに併設することにより、心理テスト(主にバウムテスト、カラー診断)の結果、問題が憂慮された生徒対象、保護者対象の心理カウンセリング、一般の方の教育に関するカウンセリングを中心に実施した。 <実績例> ・心理分析及びカウンセリングの結果、自殺願望のあった一卵性双生児の姉の「うつ的傾向」を改善させた。 ・不登校児童(クラスでの問題行動が長年あった)小学4年生と母親:問題行動の原因解析に成功。解決志向療法による子供へのアプローチ後、家族療法1年間の様々な試みの末、平常登校に戻り生活リズムも回復した。(母親によると幼少から精神科、心療内科、教育専門家に相談するも全く原因すら把握できなかったクライアントであった。) ・不登校の中学生をもつクライアント10事例:その全てにおいて行動療法と現実療法の折衷技法によるアプローチが功を奏し平常登校に戻ることができた。 ・PTSDの23歳女性:現実療法による試みをご主人が希望された。カウンセリング後、自身の母親による虐待記憶のストレスが原因で1歳になる自分の子供を愛せない、虐待するのではないかという不安を段階的に軽減させ快方に向った。</p>

<p>教材開発研究 NO.26 自己表現能力育成 プログラム開発 *九州大学</p>	<p>2005.4～ 2012.12</p>	<p>(2) 心療内科アイさくらクリニック勤務1年間 受理面談(1回1人20～30分)を担当。来談者中心 療法によるカウンセリングと心理テスト分析を実施。診 断の見立てを医師に報告した。</p> <p>(3) 福岡心理カウンセラー普及協会事務局設置3年間 <各種カウンセリング技法の勉強会> フォーカシング ソリューションフォーカストアプロ ーチ ブリーフセラピー 論理療法 現実療法 ビジョントレーニング 投影法(ロールシャッハテスト バウムテスト)</p> <p>(4) 福岡工業大学学生相談室カウンセラー7年間 ①発達障害・学習障害の学生に対する学習と就職支援及 びメンタルサポート、就職に結びつく個性・能力・職業 適性の発見と活用支援 ②不登校の学生と親との三者面談～復学に向けての心理 カウンセリング、担任との連携 ③主に3年生4年生の就職とキャリア支援 就職相談～面接対策～キャリアカウンセリング</p> <p>26について <研究の背景> 全国的な就職氷河期が続き、東京首都圏では人材関連の 企業による様々な就職支援が広がる中、九州大学でも東 京大学にキャリア支援室が開設されるのと呼応してキャ リア支援室が設置された。しかし、就職支援の経験とノ ウハウの蓄積がなかった。そのため、ジョブカフェ福岡 の大学サテライト事業(当時、大学サテライト事業統括 主任講師)によるサポートの一環として模擬面接やキャ リア講演、留学生向けビジネス日本語講座などを試験的 に実施し、九州大学学部生・学府生の課題を抽出した。 その結果、自己理解・社会と就職に関する知識・自己表 現力が不足しているために、首都圏の学生との就職競争 を戦う上で面接試験において不利である、との結論に達 した。そこで、学部・学府・留学生の枠を越えた「自己 表現能力育成プログラム」の開発を始め、2006年度よ り本格導入された。</p> <p><九州大学自己表現能力育成プログラム> (全地区学部生～修士・博士課程) カリキュラム及びテキスト企画作成(8年間) <特長>2時間×3回に渡り自己表現力を段階的に育成。 (1)第一印象の自己表現(セルフデザイン) (2)使えるビジネスマナー(敬語とことば力) (3)聞き役に徹する技術と効果 (4)相手意識の話し方</p>
--	----------------------------	---

<p>6. 地域社会学研究 実践研究 NO.27 地域創生～地域住民と産学 公連携による活性化策 ＊全国 300 万人就職応援 プロジェクト</p>	<p>2003.4～ 現在</p>	<p>(5)自己表現の組み立て10のステップ (6)自己PR1分間とフィードバック ほか ＊カリキュラムとテキストは毎年改訂を行った。 <教育効果> 例) 2006 年度調査 3回連続で受講した21名のアンケート調査により以下のデータが得られた。 Q. セミナー受講後に変化がありましたか? A. 自己理解が深まった 10名 自己表現に自信が付いた 11名 他 セミナー受講前⇒後の自己評価 (100点満点) 受講前35.2点⇒受講後55.2点 21名の自己評価平均点が20.0点上昇した。 (2006年7月6日アンケート集計 ＊8年間で実数2,000名以上が受講し毎回同様の数値結果が得られた。)</p> <p>27について 塾経営・企業と商業施設コンサルティング技術を活かして産学公による地域創生を試みた。以下、実績例抜粋。 (1) 西新プラリバ(福岡第3セクター)及び西新商店街ほか5つの商店街:住民共生型商業施設アドバイザー(2003年4月～2005年9月) ・福岡市早良区西新地区の商業活性化のために「西新まつり」の第一回企画と運営を行った。ライバル関係でもある大型商業施設プラリバと5つの商店街が協力し経済的な相乗効果を生み出すために福岡西商工会議所を主幹事として組織。地元の西南大学、中村大学とも連携した。 (2) 小倉商店街活性化企画 ・「小倉ハローズ」(エスコートボランティア)育成 北九州商工会議所との共同企画 (3) 志賀島地域住民による活性化委員会参画 志賀島「金印まつり」会合出席。福岡市主催 (4) JP商業施設「KITTE博多」価値向上支援 新たな店舗評価システムを開発しテナントの実態調査を行った。会社視点・労働者視点・顧客視点を盛り込んだ。 (5) 熊本復興支援バスツアー参画 (25名参加) 2016年熊本震災から1年、観光による復興支援を実施。 (6) 全国300万人就職応援プロジェクト 学生の就職支援ー企業の人事支援ー地域の人材確保ー自動車業界の活性化を連動して行う企画。自動車教習所へ「人生の運転免許証も取りに行く」をコンセプトにして自動車教習所のハード(空き教室)とソフト(講師)資源を活用した就活教習所の設置、就職支援講師養成ほか。</p>
---	--------------------------------	--

<p>7. 学力と食育 調査研究 NO.28 食と学力との相関関係</p>	<p>2003.1～ 2003.12</p>	<p>28 について <健康補助食品の開発> うなぎの柳川屋グループ（小路智広の実父創業～当時会長）とタイアップし、うなぎを使用した健康補助食品「マンパワーDX」を開発。小中学生の学力低下や「切れやすい」現象を食事と栄養摂取の観点から専門書・関連商品を研究分析。 (1)免疫力と忍耐力に関連があるとされるビタミンA (2)記憶力にも関連性が高いとされるDHA (3)精神安定性に効果が確認されているカルシウム (4)相乗効果が期待される必須アミノ酸 をバランスよく配合したサプリメントを開発した。 広報に関しては、情報誌、柳川屋各店店頭での販売、代理店販売を行った。また、子育て情報誌リトルママとコラボし、親子で参加できる「元気とランチが出るセミナー」を開催。保護者講演会等でも一部広報した。 <ご利用者の声（感想）> （子供が）我慢強くなった 優しくなった 学校で落ち着いているらしい 算数の計算が急に速くなった 風邪をひかなくなった 等の感想が寄せられた。</p>
<p>8. 日本一周キャリア研究 調査研究 NO.29 キャリアの地域特性</p>	<p>2007.8.21～ 2007.10</p>	<p>29 について 延べ51日間で日本全国47都道府県をキャリアの視点で視察しキャリアの全国的な傾向と地域傾向を探り、これからの日本人の生き方働き方とキャリア教育の在り方について検証を行った。 <キャリア教育の現状と仮説> 現在では、職場体験や地域活動を年間計画に盛り込み、1日実習生として店頭に立ってお客様対応の体験をすることで働く意義や適職を見出す機会とし、成果を挙げている中学校や高校の報告が全国からなされている（キャリア教育学会総会報告より抜粋）。しかし、一方いまだ進学実績を重視する傾向が強く地域間・学校間・クラス間の「キャリア教育に対する意識とスキル」格差は大きい。ではキャリア教育が今なぜ、学校現場に必要なのか。教育現場に山積する問題の根本原因は人生の目標＝職業的な夢喪失と基本的欲求の低下にある。 <職業的夢喪失説> (1)「学級崩壊」・・・親自身の社会的夢喪失の子供への連鎖（学校に対する期待値の低下）に起因。 (2)「学力低下」・・・個人的な夢喪失（勉強の目的・確固たる人生の目標欠如）に起因。 (3)「いじめ」・・・社会的な夢喪失及び職場ストレスの家庭から学校への環境連鎖に起因。</p>

<p>9. NPO わたしと僕の夢 事例研究 NO.30 ソーシャル教育 子供の居場所づくり事業</p>	<p>2016.9～ 2017.3</p>	<p>(4)「早期離職」・・・職場における夢喪失及び自己効力感の低下に起因。(職業観の欠如) (5)「ニート・フリーター」・・・職業的夢喪失と高大接続失敗からのレジリエンス不足に起因。</p> <p><欲求低下説> (1)親の元で「食べられる」・・・「食」を確保するための基本的欲求(生理的欲求)の低下 (2)親の元で「守ってもらえる」・・・生活を守るための自立と勤労欲求(安全欲求)の低下 (3)ネットと携帯で人とつながる・・・深いコミュニケーション欲求(愛と所属欲求)の低下 (4)個性がいつも認められてきた・・・職業的創造欲求(承認欲求)の低下 *教師の評価力不足も課題 (5)競争や夢がない日常生活・・・目標達成に向けた学習欲求(自己実現欲求)の低下</p> <p>経済成長鈍化に伴い所得低下と企業間個人間競争が激化する中、新たな職業観を一人ひとりが獲得するメリットは国家的メリットに直結すると思われる。</p> <p><保護者・保育者の統合的ライフロール説> 人はライフロールを統合することで新たな職業観を確立し夢を創造する。親・保育者のライフロール統合に伴い学童児童は基本的欲求を回復する。家庭人、企業人、地域人、日本人、地球人としての役割と職業人としての役割の統合など、教育者自身の統合的な人生設計が必要。</p> <p>以上の仮説のもと47都道府県を探訪し、キャリアの視点で「地域経営」に関する大学レジュメを作成した。 1日目 <山口>街づくり道づくり：公共事業 西の京づくり 美しい国へ日本道路百選 2日目 <広島>価値観の発信：厳島神社と対岸の競艇場 原爆ドームと高層マンション 3日目 <岡山>これからの観光：岡山城と兼六園 倉敷美観地区とチボリ公園</p> <p>ほか元にLEC東京リーガルマインド大学総合キャリア学部のゼミ・フィールドワーク・卒業論文指導を行った。</p> <p>30について 経済的に恵まれない環境の子供たち、特にひとり親家庭の子供たちを「食育・教育・保護者および教育者教育」の三位一体で支援。</p>
--	---------------------------	---